

3 石狩の交通と運輸

●道路

管内の道路は、延長が10,273.3kmで全道の11.4%を占めており、改良率・舗装率では全道平均を上回っています。このうち55.3%にあたる5,684.5kmが札幌市内となっています。

●鉄道

管内の鉄道は、幹線系3線区(函館本線、千歳線、石勝線)、地方交通線1線区(札沼線(学園都市線))の4線区があります。

●都市交通

札幌市内を運行する地下鉄は、国内初のゴムタイヤ方式により、全国では4番目の地下鉄として昭和46年12月に南北線が開業し、その後、昭和51年6月には東西線が、昭和63年12月には東豊線が開業し、3路線の総営業キロは48.0kmとなっています。

また、路面電車は、1系統8.9kmが運行しています。

●自動運転の取組

管内市町村(千歳市、当別町)では、持続可能な地域公共交通の確保に向けた取組として、自動運転バスの実証実験が行われています。

●空港

管内の空港は、新千歳空港と丘珠空港の2つがあり、令和6年度は合わせて年間約2153万人の利用がありました。

東京、大阪などの国内27都市と、令和8年1月1日時点で14都市(ソウル、釜山、清州、台北、高雄、香港、北京、上海、シンガポール、バンコク、チェンマイ、クアランプール、マニラ、シドニー)を結ぶ航空ネットワークを形成しています。

■都市間距離早見表 単位: km (距離は大まかな目安です)

35	25	67	65	46	30	10	新篠津村
25	15	63	55	37	20		当別町
16	29	55	46	34			石狩市
19	22	33	42				北広島市
30	33	9					恵庭市
39	42						千歳市
21							江別市
							札幌市

(石狩振興局地域創生部地域政策課調べ)

■管内鉄道の現況 (令和6年4月1日現在)

線区名	区間	管内	
		駅区間	キロ程
函館本線	函館～旭川	豊幌～ほしみ	42.5km
千歳線	白石～沼ノ端	白石～新千歳空港	40.8km
札沼線(学園都市線)	桑園～北海道医療大学	桑園～北海道医療大学	28.9km
合計(3線区)			112.2km
全道(14線区)			2254.9km

(石狩振興局地域創生部地域政策課調べ)

■管内都市交通の現況

路線	区間	営業キロ	
地下鉄	南北線	麻生～真駒内	14.3 km
	東西線	宮の沢～新さっぽろ	20.1 km
	東豊線	栄町～福住	13.6 km
	合計(3路線)		48.0 km
路面電車	西4丁目～西4丁目	8.9 km	

(石狩振興局地域創生部地域政策課調べ)

■空港別施設概要

	供用開始	滑走路	面積	設置管理者
新千歳	昭和63年7月	3,000m×60m 2本	728ha	国土交通大臣
丘珠	昭和36年11月	1,500m×45m 1本	103ha	防衛大臣

(石狩振興局地域創生部地域政策課調べ)

■空港別国内線年間乗降客数及び貨物取扱量の推移

区分	乗降客数									
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
新千歳	18,561	18,824	19,598	19,777	19,507	6,436	9,229	16,947	20,031	20,951
丘珠	179	214	251	266	267	162	196	320	439	575

(単位:千人)

区分	貨物取扱量									
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
新千歳	205,279	194,178	192,275	165,080	151,934	102,343	106,048	126,530	125,664	149,496
丘珠	3	2	1	0	1	0	0	0	1	3

(単位:トン)

(国土交通省「空港管理状況調査」)

■新千歳空港国際線年間乗降客数及び貨物取扱量の推移

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
乗降客数	2,278	2,721	3,495	3,858	3,308	10	101	930	2,902	3,888
貨物取扱量	9,639	10,515	16,931	23,037	16,118	12,714	13,074	6,298	6,983	7,858

(国土交通省「空港管理状況調査」)



自動運転実証実験車両(当別町)



新千歳空港(千歳市)

●港湾

石狩湾新港は、日本海に面し、石狩市と小樽市の両市に位置する、札幌市に最も近い（札幌市中心部から約15km）管内唯一の重要港湾です。背後の石狩湾新港地域は、道央圏の新たな生産・流通基地を創出するものとして、昭和53年から開発が進められ、現在約770社の企業が立地し、操業企業約650社、就業者数は約20,000人にのぼっています。

港の建設は昭和48年に着手し、昭和57年に東埠頭、昭和63年に花畔埠頭、中央埠頭、平成3年に樽川埠頭を順次供用開始し、平成18年に西地区で水深14m岸壁を有する国際物流ターミナルを供用開始しました。平成25年には、防災力強化のために耐震強化岸壁を花畔埠頭で供用開始し、令和2年12月現在で水深14m岸壁1バース、水深13mドルフィン1バース、水深10m岸壁6バース、水深7.5m岸壁12バースの計20バースを供用開始しています。

また、令和3年には、水深12mの岸壁整備などを進める「東地区国際物流ターミナル事業」が国の新規事業として採択されました。

平成6年に出入国港の指定を受け、国際貿易港として開港し、平成11年に植物防疫港、平成12年に動物検疫港、平成15年には国土交通省から広域的なリサイクル企業の立地に対応するリサイクルポート（総合静脈物流拠点港）、平成17年には検疫港、平成24年には、港則法上の特定港と順次指定を受けています。

平成9年には、韓国釜山港との間に外貿定期コンテナ航路が開設され、現在、韓国航路では週1便、中国・韓国航路では週2便体制をとっています。

またコンテナヤードには、平成13年にガントリークレーンの供用が開始され、令和2年には2基目となるガントリークレーンが整備されました。

このほか、平成15年4月には、内閣総理大臣より重量物輸送の効率化を図ることが可能となる港湾物流特区の認定を受けています。その後、平成22年には、新たな直轄港湾整備事業の着手が可能となる「重点港湾」に選定され、翌年にはLNG機能に係る「日本海側拠点港」にも選定されています。

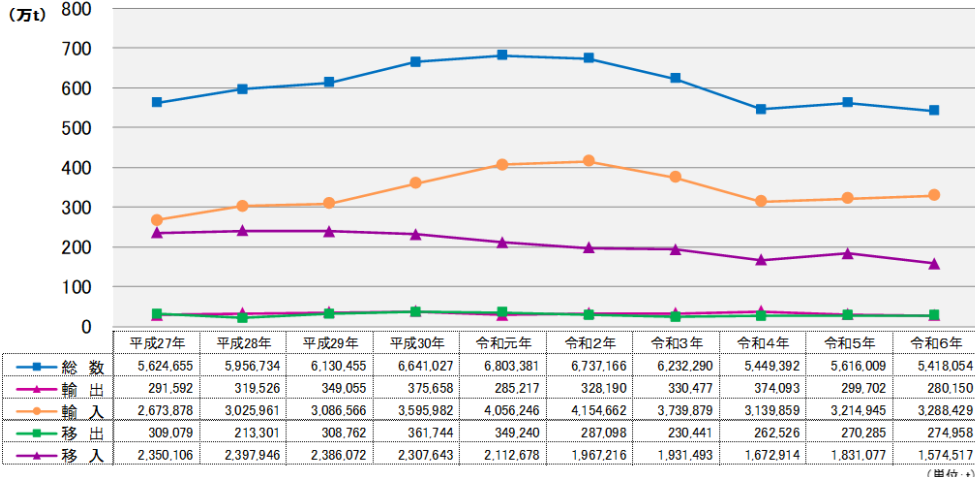
特に中央埠頭では、平成24年11月に北海道ガス（株）が北海道で唯一となる外航船に対応したLNG輸入基地の運転を開始し、翌年からは内航船によるLNGの輸送が始まっています。

また、西埠頭では、平成31年2月より北海道電力（株）がLNG火力発電所の運転を開始し、北海道のエネルギー供給拠点として重要な役割を担っています。

このような発展を続ける本港は、令和6年の取扱貨物量が、約542万トン（速報値）となり、国際貿易港として、ますます道央圏はもとより北海道を支える重要な物流拠点となっています。

■貨物取扱量の推移（過去10年）

■貨物取扱量の推移（過去10年）



■取扱貨物の内訳（令和6年1月～12月実績）

（単位：t）

外貨貨物		内貨貨物	
輸出	280,150	移出	274,958
輸入	3,568,579	移入	1,849,475

（石狩新港管理組合調べ）



石狩港湾全景



中央埠頭（LNG船/LPG船/LNGタンク）



花畔埠頭（ガントリークレーン）

（石狩湾新港管理組合調べ）